



1 部会長の相澤誠紀さんと奥様の錬子さん。70aの畑で4品種のメロンを栽培。「収穫は早朝4時過ぎからで大変。でも収穫時期が一番の楽しみ」。2 メロン(タカミ)の花。3 三種町八竜地区にある直売所「ドラゴンフレッシュセンター」。旬の時期にはメロンを買い求める多くの人で賑わう。4 今年4月に竣工したJAの野菜集出荷所に、7月中旬から出荷が始まったタカミメロンが次々に運ばれてくる。5 メロンの下に敷く皿(トレー)。敷く時期が遅れると色のつき方に影響があり、気をつかう作業のひとつ。6 露地トンネル栽培の相澤部会長の圃場。トンネル1本あたり約250個のメロンが収穫できる。



# JA秋田やまもと 八竜メロン

直売所でメロンを見ると必ず買ってしまふほどのメロン好きです。特に産地の名前がついたメロンは魅力的ですが、先日購入した「八竜メロン」について教えてください。

**ナビゲーター**  
JA秋田やまもと  
営農生活部 営農販売課  
近藤 大輔さん

**DATA**  
八竜メロンの旬  
6月下旬～7月下旬(ハウス栽培の場合)以下出荷順



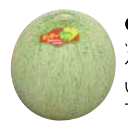
●サンキュー(白地の青肉)管内で出荷するメロンの約10%がこの品種。県内のみのお出荷品種。



●カナリアン(黄色地の白肉)7月上旬～中旬。管内で出荷するメロンの約25%がこの品種。ほかの品種より日持ちがする。



●タカミ(ネット系の青肉)7月中旬～下旬。比較的作りやすく大玉。管内の主力品種で、出荷するメロンの約半分がこの品種。



●サンデーレッド(ネット系の赤肉)6月下旬～7月上旬。大きい品種ではないが、甘味の良い品種。

■お問い合わせ先  
JA秋田やまもと 営農販売課  
TEL.0185-85-2121  
<http://ja-a-yamamoto.jp/>

**解説**  
JA TANKENTAI

「八竜メロン」の特徴は？  
一番の特徴は砂丘で栽培している「砂丘メロン」であるところです。JA秋田やまもと管内の八竜地区は砂丘地帯。水はけがよい砂地で栽培されるメロンは、余分な水分を果実にため込まないため糖度が高く、昼夜の温度差が大きい気候もおいしいメロンを育てます。また、管内は見た目がツルとした「ノーネット系」の品種の産地としても有名です。「サンキュー」や「カナリアン」など、メロンの表皮に網目が無い品種です。ネット系では「アムス」や「タカミ」を栽培していて、中でも「タカミ」は当JAの主力品種です。「八竜メロン」は人気が高いブランドメロンとして市場でも長く選ばれています。

「八竜メロン」の歴史は？  
砂丘地帯のため農業を営むには不利な地域だった八竜地区は、昭和30年代には県内屈指の出稼ぎ地域でした。砂地でも栽培が可能な収益性の高い農作物の導入が求められ、昭和38年のプリンスメロン試験栽培をきっかけに、生産者・JA行政が一体となってメロン栽培に取り組みました。昭和40年代から本格的な作付を開始。国のかんがい事業で畑が整備されたことで栽培面積が拡大し、ピーク時の昭和60年代には栽培面積が300haを超え、全国屈指のメロン産地に成長しました。最近では高齢化などにより栽培面積は減少しましたが、「八竜メロン」ブランドは健在です。

栽培の大変なところは？

1本の苗から4個のメロンを収穫するために、つるの節から出てくるわき芽を摘み取る作業(わき芽掻き)や、開花後にはミツバチを使っての受粉作業を行います。ミツバチはデリケートなので気温が高くては低くても働きません。また、着果したメロンひとつひとつに皿(トレー)を敷く作業もあります。皿を敷くことでメロンは均等に着色し、形も美しく生長していきます。

これからの目標を教えてください。  
メロンは栽培期間が100日前後と生育が速く、高品質なメロンを生産するためには、日々の細やかな管理や、天候やタイミングを見極めてのこうした作業が欠かせません。

三種町全体のメロン栽培面積およそ50haのうち、メロン部会では16haを栽培しています。現在メロン部会会員は76名。ほかの部会に比べると平均年齢が高いのですが、生産者一人ひとりがそれぞれの経験に基づいた高い技術を活かし、今シーズンも高品質のメロンを出荷することができました。これからも全国に向け「八竜メロン」のブランドにふさわしい味を提供していきたいですね。

●秋田の夏の風物詩「八竜メロン」は長い歴史のあるブランドなんです。生産者が手間を惜しまず栽培したメロンだと感動しました。来年も楽しみです！